

## 会場・交通案内

### ●飛行機でお越しの場合

《富山きときと空港》

- ▶富山～東京 約55分
- ▶富山～北海道 約1時間25分

《富山きときと空港》から会場までは  
タクシーで約25分 / バスで約25分  
(富山市役所前下車すぐ)

### ●鉄道でお越しの場合

《JR富山駅》

- ▶富山～東京 約2時間10分
- ▶富山～大阪 約3時間10分
- ▶富山～名古屋 約3時間

《JR富山駅》から会場までは徒歩10分

### ●自動車でお越しの場合

《富山I.C.》

- ▶富山～東京 約4時間50分  
(関越自動車道 練馬I.C.上信越自動車道-北陸自動車道 富山I.C.)
- ▶富山～大阪 約4時間15分  
(名神高速道路 豊中I.C.-北陸自動車道 富山I.C.)
- ▶富山～名古屋 約3時間  
(東海北陸自動車道 一宮I.C.-北陸自動車道 富山I.C.)

## 全体会場・交流会 会場MAP



### 第1分科会 朝日町

あさひコミュニティホールアゼリア  
〒939-0744 富山県下新川郡朝日町平柳688



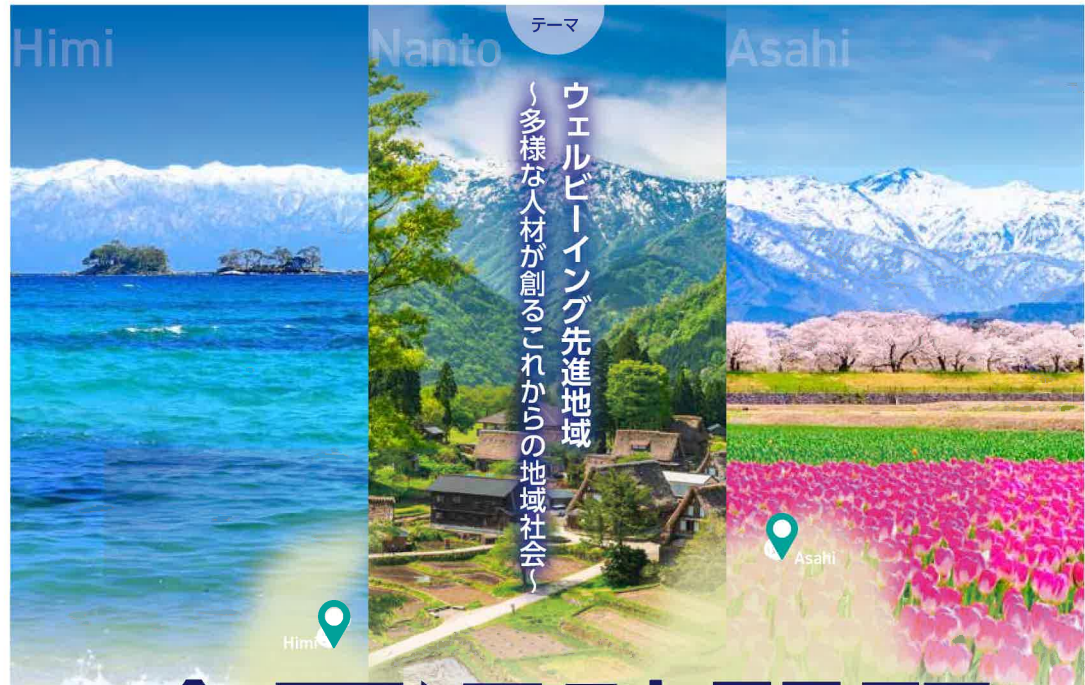
### 第2分科会 氷見市

氷見市芸術文化館  
〒935-0021 富山県氷見市幸町31-9



### 第3分科会 南砺市

南砺市井波総合文化センター  
〒932-0231 富山県南砺市山1400



# 全国過疎問題 シンポジウム2023 in とやま

令和5年  
2023 10.26 木 -27 金

**26日 木**  
全体会

富山県民会館ホール(富山市)

- 令和5年度 過疎地域持続的発展優良事例表彰式
- 基調講演「過疎地域の使命」  
《講師》宮口 侗逸 氏(早稲田大学名誉教授)
- パネルディスカッション  
「ウェルビーイング先進地域  
～多様な人材が創るこれからの地域社会～」  
ANAクラウンプラザホテル富山(富山市)

交流会

**27日 金**  
分科会

朝日町 ●第1分科会 優良事例発表・現地視察  
(あさひコミュニティホールアゼリア)

氷見市 ●第2分科会 優良事例発表・現地視察  
(氷見市芸術文化館)

南砺市 ●第3分科会 パネルディスカッション・現地視察  
(南砺市井波総合文化センター)

主催 / 総務省、全国過疎問題シンポジウム実行委員会(富山県、一般社団法人全国過疎地域連盟、富山県地域振興団体協議会)

後援 / 農林水産省、国土交通省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、環境省、全国知事会、全国都道府県議会議長会、全国市長会、全国市議会議長会、全国町村会、全国町議会議長会、全国山村振興連盟、一般財団法人地域活性化センター、富山県市長会、富山県市議会議長会、富山県町村会、富山県町村議会議長会、公益財団法人富山県市町村振興協会、読売新聞北陸支社、朝日新聞富山総局、毎日新聞富山支局、北陸中日新聞、株式会社日刊工業新聞富山支局、日本経済新聞社富山支局、(一社)共同通信社富山支局、読者通信社富山支局、北日本新聞社、富山新聞社、NHK富山放送局、北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、富山エフエム放送、一般社団法人富山県ケーブルテレビ協議会

# 全国過疎問題シンポジウム2023 in とやま 開催のご案内

## 大会趣旨

過疎地域では、人口減少や少子高齢化が進展し、産業の衰退による地域社会の活力の低下をはじめ、集落機能の低下等さまざまな課題に直面しています。

一方で、豊かな自然や農地、森林などを有する過疎地域は、水源の涵養、食料の生産、自然災害の防止といった人々の生活や生産活動を支える公益的役割を担うとともに、ウェルビーイング(自分らしく幸せに生きられること)を実感できる「幸せの基盤」が揃っています。

「全国過疎問題シンポジウム2023 in とやま」は、

過疎地域の可能性について、新たな気づきや発見がある場とするとともに、全国の優れた取組にふれ、参加者相互の交流を図るなど、人と人とのつながりを通じて将来に向けた取組を考える契機となることを目指します。

26日  
困

## 全体会

富山県民会館ホール (富山市)

- 11:00 展示ブースオープン
- 12:00 受付開始
- 13:00 開会式
  - ・開会宣言 富山県地域振興団体協議会過疎地域振興部会長(朝日町長)
  - ・主催者挨拶 総務大臣 (一社) 全国過疎地域連盟会長
  - ・歓迎挨拶 富山県知事
- 13:20 令和5年度過疎地域持続的発展優良事例表彰式
- 13:50 休憩
- 14:05 基調講演「過疎地域の使命」  
《講師》宮口 侗迪 氏(早稲田大学名誉教授)
- 15:00 休憩
- 15:10 パネルディスカッション  
「ウェルビーイング先進地域  
～多様な人材が創るこれからの地域社会～」  
【コーディネーター】 指出 一正 氏(『ソトコト』編集長)  
【パネリスト】 藤田 とし子 氏(まちとひと 感動のデザイン研究所 代表)  
金子 知也 氏((公社) 中越防災安全推進機構にいがたイナカレッジ マネージャー)  
島田 優平 氏((一社) ジノウラボ 代表理事)  
佐藤 みどり 氏(NPO法人立山 クラフト舎 代表理事)
- 16:55 次期開催県紹介
- 17:00 閉会

## 27日 分科会 (優良事例発表会・現地視察)

### 第1分科会 朝日町 あさひコミュニティホール アゼリア

- 9:15 会場受付開始
- 9:50 過疎地域持続的発展優良事例発表会  
【コーディネーター】 宮口 侗迪 氏(早稲田大学名誉教授)  
【発表者】 総務大臣賞及び全国過疎地域連盟会長賞受賞団体
- 11:55 スペシャルトークセッション  
「富山県朝日町発、日本の幸せづくり  
～一人ひとりが住みたい場所に住み続けるために～」  
藤野 英人 氏 ((一社) みらいまちラボ合同代表、  
X シオス・キャピタルワークス株式会社 代表取締役会長兼社長 CEO&CIO)  
富山 洋平 氏 (朝日町次世代パブリックマネジメントアドバイザー、(株) 博報堂)
- 12:30 (午前みの参加者は専用バスで富山駅へ)
- 12:40 現地視察(昼食:紋左(たら汁定食))～ P7へ
- 17:00 解散(富山駅)



あさひ川「春の四重奏」

### 第2分科会 氷見市 氷見市芸術文化館

- 9:15 会場受付開始
- 9:50 過疎地域持続的発展優良事例発表会  
【コーディネーター】 指出 一正 氏((株) sotokoto online 編集長)  
【発表者】 総務大臣賞及び全国過疎地域連盟会長賞受賞団体
- 11:50 (午前みの参加者は専用バスで富山駅へ)
- 12:00 現地視察(昼食:番屋亭(海鮮御膳))～ P8へ
- 17:00 解散(富山駅)



蛇ヶ島越しの立山連峰

### 第3分科会 南砺市 南砺市井波総合文化センター

- 9:00 会場受付開始
- 9:30 パネルディスカッション  
「集落の暮らしを未来へつなぐ  
～縮退する過疎集落に向き合う現場での取組と課題～」  
【コーディネーター】 岡司 直也 氏(法政大学現代福祉学部 教授)  
【パネリスト】 田口 太郎 氏(徳島大学大学院社会産業理工学研究部 教授)  
小玉 陽造 氏(山口県岩国市 市民協働部長)  
小島 公明 氏(兵庫県朝来市いくの地域自治協議会 事務局長)  
川島 尚子 氏(高知県安戸市まちづくり推進課 集落支援員)
- 12:00 (午前みの参加者は専用バスで富山駅へ)
- 12:15 現地視察(昼食:道の駅木彫りの里(麦屋パークの山海膳))～ P9へ
- 17:00 解散(富山駅)



世界遺産 相倉合掌造り集落

## 全体会 登壇者

### 基調講演《講師》



みやぐち としみち

#### 宮口 侗迪氏 (早稲田大学名誉教授・文学博士)

1946年富山県富山市(旧細入村)生まれ。  
 東京大学地理学科同大学院博士課程にて社会地理学を専攻し早稲田大学に勤務、1985年教授、その後教育・総合科学学術院長を歴任。2017年名誉教授。  
 国土審議会専門委員、大学設置審議会専門委員、自治大学校講師、富山県景観審議会会長、富山市都市計画審議会会長を歴任、2021年3月まで総務省過疎問題懇談会座長として、新しい過疎法の制定に尽力、地方の発展のあり方について発言を続ける。  
 1985年から富山市在住。『過疎に打ち克つー先進的な少数社会をめざしてー』(原書房)ほか著書多数。

### パネルディスカッション《コーディネーター》



さしで かずまさ

#### 指出 一正氏 (『ソトコト』編集長)

『ソトコト』編集長。  
 富山県「くらしたい国、富山」推進本部本部員、島根県「しまコトアカデミー」メイン講師、山形県小国町「白い森サステナブルデザインスクール」メイン講師、和歌山県田辺市「たなコトアカデミー」メイン講師、福島相双復興推進機構「ふくしま来創造アカデミー」メイン講師、奥大和地域誘客促進事業実行委員会、奈良県、吉野町、天川村、曾爾村「MIND TRAIL 奥大和 心のなかの美術館」エリア横断キュレーター、群馬県庁31階「ソーシャルマルシェ&キッチン「GINGHAM (ギンガム)」」プロデューサーをはじめ、地域のプロジェクトに多く携わる。  
 内閣官房、総務省、国土交通省、農林水産省、環境省などの国の委員も務める。  
 経済産業省「2025年大阪・関西万博日本館」クリエイター。  
 著書に『ぼくらは地方で幸せを見つける』(ポプラ新書)。

### パネルディスカッション《パネリスト》



ふじた としこ

#### 藤田 とし子氏 (まちとひと 感動のデザイン研究所 代表)

大学卒業後、大手流通グループ、クチコミ系マーケティング会社等を経て、2001年、「かわいんフォーメーションセンター」の事務局長、センター長(2019年～)、市民参加のまちづくりとクチコミを活かしたブランディング戦略で中心市街地活性化事業を展開。(株)全国商店街支援センター事業統括役時代(2010年～)には地域商業再生と新たな地域リーダーの育成に尽力した。この20数年、一貫して持続可能なまちづくりにこだわり、【掘り起こせ!地域の宝プロジェクト】として市民起点の「まち歩きMAPプロジェクト」を全国150エリアで展開。町衆の心に【まちへの誇りと愛着】を醸成し、次世代人材の育成に力を注いでいる。



かねこ ともや

#### 金子 知也氏

(公益社団法人 中越防災安全推進機構にいがたイナカレッジ マネージャー)

中越地震により過疎化が加速した新潟県中越地域の農村地域で都市部の若者を受け入れるプログラム「にいがたイナカレッジ」を2012年に立ち上げる。よそ者が地域課題を解決するのではなく、地域の人々と関わりながら日常を過ごすことで、地域に気づきを与える等前向きな雰囲気を生むきっかけ作りを重視したプログラムを設定。プログラムへの参加をきっかけに定住する人も多くみられるようになり、中越地域のみならず県内各地に活動の輪を広げている。



しまだ ゆうへい

#### 島田 優平氏 ((一社) ジソウラボ 代表理事)

2008年より井波にもどり家業の林業に携わる。近年は南砺市の推進するエコビレッジ構想に呼応し、森林をキーワードに人と人との関係性や地域の方向性について考え、事業を通じて地域に貢献できるよう各種事業に参画している。2017年には(公社)となみ青年会議所理事長を歴任。また、日本遺産の認定をうけた地元井波地域において、井波日本遺産推進協議会ワーキンググループ座長として、日本遺産関連事業の推進。その事業をきっかけとしてジソウラボを有志で設立し、地域における人づくり事業を通して、地域活性に取り組んでいる。好きなことは人との出会いや旅行。



さとう みどり

#### 佐藤 みどり氏 (NPO法人立山クラフト舎 代表理事/陶芸家)

1983年生まれ。2002年 Keith Rathertの器に惹かれ陶芸をはじめ。愛知県瀬戸市を中心に陶芸を学び、2008年以降、個展・グループ展にて作品発表を行う。2014年富山県立山町に移住。3年間立山町地域おこし協力隊として活動。自身の作家活動の経験から、全国からの作りの作家が集うクラフトフェア「立山Craft」を主催(2015年以降毎年開催)。富山県を代表するクラフトイベントとなる。2017年NPO法人立山クラフト舎を設立。代表理事を務める。立山町に築業。2019年より作家活動を本格的に再開。富山県成長戦略会議 真の幸せ(ウェルビーイング)戦略PT委員、「くらしたい国、富山」推進本部本部員、とやま未来創造県民会議委員、富山県中山間地域創生総合戦略検討会委員。

## 分科会 登壇者

## 第1分科会

## 朝日町 トークセッション



ふじの ひでと

## 藤野 英人氏

(一社) 未来まちラボ合同代表、  
レオス・キャピタルワークス株式会社 代表取締役会長兼社長 CEO&CIO)

1966年富山県生まれ。1990年早稲田大学法学部卒業、野村投資顧問入社。96年よりジャーデン・フレミング投信・投資顧問(現JPモルガン・アセット・マネジメント)、2000年よりゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントにてファンドマネジャーを歴任。特に中小型株および成長株の運用経験が長い。2003年独立し、レオス・キャピタルワークス株式会社を創業。投資教育にも注力しており、東京理科大学上席特任教授、叡啓大学客員教授、淑徳大学地域創生学部客員教授も務める。近書に「プロ投資家の先の先を読む思考法」(クロスメディア・パブリッシング)「投資家がパパとママに伝えたい たいせつなお金のはなし」(星海社新書)などがある。

2020年12月に朝日町特命戦略推進監就任。



はたけやま ようへい

## 島山 洋平氏

(朝日町次世代パブリックマネジメントアドバイザー、(株) 博報堂)

2003年(平成15年)4月 株式会社博報堂入社  
2012年(平成24年)10月 博報堂従業員組合 委員長  
2019年(平成31年)4月 第五営業局 部長  
2021年(令和3年)4月 第二MDコンサルティング局 局長代理  
2022年(令和4年)4月 朝日町次世代パブリックマネジメントアドバイザー就任

## 第3分科会

## 南砺市 パネルディスカッション《コーディネーター》



ずし なおや

## 図司 直也氏 (法政大学現代福祉学部 教授)

1975年愛媛県生まれ。東京大学農学部を卒業し、東京大学大学院農学生命科学研究科農業・資源経済学専攻に学ぶ。2005年に同研究科博士課程を単位取得退学。博士(農学)。財団法人日本農業研究所研究員、法政大学現代福祉学部専任講師、准教授を経て、2016年より現職。中山間地域等直接支払制度に関する第三者委員会委員長、(財)地域活性化センター・地域リーダー養成熟主任講師等、地域振興・人材育成に関するアドバイザーを歴任。専門分野は、農山村政策論、地域資源管理論。

主な著書は、「就村からなりわい就農へ」(筑波書房)、「地域サポート人材による農山村再生」(筑波書房)、「新しい地域をつくる」(共著:岩波書店)、「プロセス重視の地方創生」(共著:筑波書房)、「内発的農村発展論」(共著:農林統計出版)、「人口減少社会の地域づくり読本」(共著:公職研)、「田園回帰の過去・現在・未来」(共著:農山漁村文化協会)など。

## 第3分科会

## 南砺市 パネルディスカッション《パネリスト》



たぐち たろう

## 田口 太郎氏 (徳島大学大学院社会産業理工学研究部 教授)

1976年神奈川県生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業、同大学院修了。博士(工学)。小田原市政策総合研究所特定研究員、早稲田大学助手、新潟工科大学建築学科准教授、徳島大学大学院准教授を経て現職。専門は地域計画。総務省これからの移住・定住のあり方に関する検討会委員、内閣府地方創生推進交付金のあり方に関する検討会委員、農林水産省長期的な土地利用のあり方に関する検討会委員などを歴任。自身も徳島県の過疎地域に移住し、生活者としての視点も持ちながら研究を進めている。主な著書に「まちづくりオーラル・ヒストリー」(水曜社、2005)、「少人数で生き抜く地域をつくる」(学芸出版社、2023)、他。



こだま ようぞう

## 小玉 陽造氏 (山口県岩国市 市民協働部長)

岩国市 市民協働部長  
S38年 山口県の雪深い山間地域で出生  
S59年 岩国市役所に入庁  
しょうがい者福祉援護、観光振興、市民協働推進に長く携わる。  
令和3年から現在の市民協働部長に就任



こじま きみあき

## 小島 公明氏 (兵庫県朝来市いくの地域自治協議会 事務局長)

昭和55年生野町役場入職、平成17年合併により朝来市となり、平成29年3月定年退職。  
平成30年5月いくの地域自治協議会事務局長に就任、同時期より集落支援員を務める。  
地域内の各区自治会に対する活動支援や市の施設管理の受託等を行っているほか、旧鉱山宿舎を活用したゲストハウスの設立、運営にも取り組んでいる。



かわしま なおこ

## 川島 尚子氏 (高知県室戸市まちづくり推進課 集落支援員)

奈良県福原市出身。北海道と神奈川県にも居住歴あり。  
東日本大震災をきっかけに2014年から家族で高知県室戸市へ。夫は漁師となる。2017年から現在まで居住地かつ夫の勤務地でもある高知県室戸市椎名地区担当の集落支援員として「椎名集落活動センターたのしいな」を拠点とした地域活性化に取り組んでいる。  
集落支援業務の一部としての新しいなこどもクラブ、しいな遊海くらぶなど地域団体の立ち上げや運営にも主体的に関わり、プライベートでは、むろと地域猫の会、室小お話会などのボランティア活動にも参加。ウクレレユニットいそもんとしても活動イベントで演奏も行い他にも様々な地域活動に関わる。

各種観光ガイドやインストラクター、ライター業も行っており特技は人と人をつなぐこと。

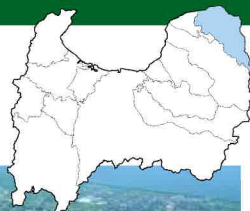
## 現地視察

### 朝日町

富山県の東端、新潟県との県境に位置し、海拔0メートルのヒスイ海岸から標高3,000メートル級の北アルプス朝日岳・白馬岳に至る、ダイナミックなパノラマが広がる自然に恵まれた町です。

春には、舟川べりの桜並木と、地元農家が桜の開花に合わせて栽培する極早生のチューリップや菜の花、雪を抱く朝日岳・白馬岳の北アルプスを背景に、自然が織りなす造形美が「春の四重奏」として楽しめます。また朝日町の最東に位置する幅80メートル・東西約4キロメートルの砂利浜は「日本の渚百選」「快水浴場百選」に選定された美しいエメラルドグリーン其自然海岸で、ヒスイの原石が海岸に打ち上げられることでも有名です。

近年、朝日町では、町の歴史や自然、文化など地元の魅力について学ぶ「ふるさと学習」の推進やICT教育等の教育環境の充実のほか、共助・共創型交通サービス、デジタル技術を活用したより生活のしやすい持続可能なまちづくりに取り組んでいます。



#### ヒスイ海岸観光交流拠点施設 ヒスイテラス

さまざまなイベントに活用できるホール、テラスや屋上からは、輝くヒスイ海岸の眺めを楽しみながら寛ぐことができます。ヒスイガイドのひすい恵みの会から石ころ探しのレクチャーを受けて、見つけてきた石ころを見つけてもらうこともできます。



#### 朝日町立ふるさと美術館

令和5年7月に移転オープン。デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）を活用し改修・整備された施設です。著名な芸術家による特別展や朝日町にゆかりのある作家の企画展のほか、常設展や個展など、1年を通して、いつでも美術鑑賞が楽しめます。またミュージアムショップや喫茶室が整備されており、落ち着いた空間となっています。

### 氷見市

富山県の北西部、能登半島の基部に位置し、市の東側に伸びる約20kmの海岸線は能登半島国定公園に指定されており、晴れた条件の良い日には、富山湾に浮かぶようにそびえる立山連峰の雄大なパノラマが眺望できます。

また、本市は、環境にやさしい漁法、定置網の発祥の地としても知られ、「ひみ寒ぶり」をはじめ、四季を通じて多種多様な魚が水揚げされるほか、魚介類だけでなく品質の高い氷見牛やハトムギなど、豊かな食文化を育んでいます。



#### 氷見漁港場外市場 ひみ番屋街

氷見漁港直送のお魚を使った回転寿司、氷見うどん、氷見牛、氷見カレーなど、地元ならではの料理が味わえる飲食店や、地場で獲れた新鮮な魚介のほか、手の込んだ加工食品に至るまで、富山湾の海の幸を満喫できる店舗がずらりと並びます。



#### SAYS FARM

一本の瓶に、海から丘に吹く心地よい風や北陸のやさしい陽の光、深々と畑に降り積もる雪もみんな一緒に詰め込んだ氷見の風土が醸すワイン。ごくシンプルな理念のもと「北陸が生む美しいワイン造り」を目指しています。



#### フォレストフローラル 氷見あいやまガーデン

立山連峰と富山湾を一望できる小高い丘の森の中に息づく西洋風庭園。約250種3,000本のバラを植栽するローズガーデンをはじめ、チューリップやユリなど四季折々の花と緑に囲まれたガーデンです。



#### 氷見市漁業文化交流センター

4面大型スクリーンで「天然のいけす富山湾」や「氷見の漁師体験」の大迫力映像が楽しめるVRシアター、大型定置網の中の魚のプレートにスマホをかざすと情報が出てくるARストリームなど多彩な体験展示等が楽しめます。

## 現地視察

### 南砺市

南砺市は、富山県南西部に位置し、平野部に広がる散居村や世界遺産「五箇山の合掌造り集落」、無形文化遺産「城端神明宮祭の曳山行事」があり、四季を通じて人と自然が調和したまちです。

このような文化や自然を後世に残すため、SDGsの視点をまちづくりに取り入れ、2019年7月には、国の「SDGs未来都市」に選定されました。

「南砺」に暮らす人々が、土地の豊かさや暮らしに感謝と誇りをもち、互いを信頼し、誰ひとり取り残さない地域社会である「一流の田舎」を目指し、次代を担う子どもたちが笑顔で暮らし続けられるまちを実現します。



#### 一般社団法人ジソウラボ

木彫刻のまちとして名を馳せ、日本遺産に認定されたまち井波。土地の文化を継承しながらも、現代の人口減に伴う様々な問題を解決するため、業種業態の垣根を越えて生まれたのが「(一社)ジソウラボ」です。

名前は「自」+「走」を組み合わせた造語で、「土地の力を継承し、自らの力で創造し、自立して走り出す」という意味が込められています。

まだ見ぬ100年後の井波文化を創るため、地方で活躍したい都市部の若者を募集し、伴走支援を行うなど、長期的な視点で持続可能な新たなまちづくりを行っています。



#### 世界遺産 相倉合掌造り集落

1995年に世界文化遺産に登録された相倉合掌造り集落には、20棟の合掌造り家屋が現存し、多くは江戸時代末期から明治時代に建てられたものです。

また、家屋だけでなく、田畑、石垣、雪崩から集落を守る雪持林(ゆきもちりん)など、集落と周りの環境とが織りなす美しい風景を目の当たりにすることができます。

## MEMO

Area with horizontal dashed lines for taking notes.